

## 介護職員の介護観の構造に関する研究

○久世淳子・武田啓子・丹羽啓子・藤原秀子・間瀬敬子・水谷なおみ(日本福祉大学 健康科学部)  
高木直美・板部美紀子(日本福祉大学 中央福祉専門学校)

キーワード：介護観, 介護職員, 施設の種別

### 目的

介護福祉士養成教育では、介護観の育成を重要視している。しかしながら、介護観の定義は明確ではない。そこで、本研究では、介護観を「介護する上で、自分が大切にしたいと思うこと(信念・価値に相当するレベル)」と定義し、学生たちが実習する施設で働く職員の介護観について検討する。

介護観は、介護観尺度を用いて量的な、あるいは自由記述を用いて質的な検討がされてきた。ここでは、白石ら<sup>1)</sup>の介護観尺度を用いて、介護観を量的に測定する。白石らは、特別養護老人ホーム(以下、特養)で働く正規の介護職員を対象とし、介護観が「考え、振り返る実践重視」「家族の意向・安全重視」「残存能力・機能重視」「組織内のルール・規範重視」の4つの因子からなることを見出した。また、山本ら<sup>2)</sup>も正規・非正規に関わらず特養で働く介護職員を対象に、同じ4因子を抽出している。本研究では、特養、介護老人保健施設(以下、老健)、障害者支援施設(以下、障害者施設)を取り上げ、施設の種別ごとの介護観の因子構造を検討する。

### 方法

**調査対象および調査方法**：調査対象者はA県内の介護実習施設で働く介護職員であった。35施設を対象に自記式の郵送調査を行った。口頭と文書で施設長に調査の主旨・方法を説明し、承諾の得られた施設宛に調査票を送付した。調査票の配布は施設に依頼し、調査票の返送にあたっては個人が特定されないよう個人ごとの封筒を準備した。

**調査項目**：調査項目は基本属性、介護観に関する項目、介護実践に関する項目で、本研究では基本属性と介護観尺度を分析に用いた。基本属性は性別、年齢、所持資格、勤務先の種別、勤務年数、雇用形態、職位であった。介護観尺度は白石らが用いた19項目について4件法で回答を求めた。

**分析方法**：介護観は白石らに習い、主因子法・直接オブミリン回転で因子分析を行った。IBM SPSS Statistics24を用い、施設種別ごとに因子分析を行い、因子構造を比較した。

**倫理的配慮**：研究の主旨および目的外使用をしないことを調査票に明記し、提出をもって対象者の同意を確認した。調査票は個人を識別する情報を除き、新たに番号を付して匿名化し、対応表は作成しないよう配慮した。本研究は本学倫理審査委員会の承認を得て実施した(2017年9月21日;17-12)。

### 結果

**分析対象者の属性**：分析対象者は555名(男性217名、女性338名)で、平均年齢(±標準偏差)は36.8(±12.0)歳であった。施設種別は、特養で働く介護職員が390名(70.3%)、老健が111名(20.0%)、障害者施設が54名(9.7%)であった。また、雇用形態は正規職員が450名(81.1%)、非正規職員が105名(18.9%)であった。

**全体の因子構造**：555名のデータを因子分析したところ、先行研究と同じ4因子が抽出された。白石らと同じ4因子であったが、「組織内のルール・規範重視」に含まれていた2項目は除外された。

**施設種別ごとの因子構造**：特養については白石らと同じ4因子が抽出されたが、先行研究で「組織内のルール・規範重視」に含まれていたチームワークにかかわる2項目が「考え、振り返る実践重視」に含まれていた。

老健と障害者施設については5因子が抽出された。老健では、「家族の意向」と「安全重視」が別の因子として抽出されたこと、先行研究で「残存能力・機能重視」に含まれていた“どのような状態になっても、残存機能を生かすための訓練やリハビリは行うべきである”という項目が「組織内のルール・規範重視」に含まれていたことの2点が白石らと異なっていた。

障害者施設でも、「家族の意向」と「安全重視」が別の因子として抽出され、「安全重視」の因子に白石らでは「組織内のルール・規範重視」に含まれていた“職場や施設で決められたマニュアルやルールに従うことは、重要である”という項目が含まれていた。さらに、第1因子は「組織内のルール・規範重視」の3項目に加え、「残存能力・機能重視」の2項目が含まれており、組織のルール・規範というよりは「チームワーク重視」因子と考えられる。白石らでは「組織のルール・規範重視」に含まれていた「介護職員は、みんなで決めたケアプランに従って、その通りに実践しなくてはならない」という項目は「考え、振り返る実践重視」に含まれており、ケアプランをみんなで考えるのではないかと考えられる。

### 考察

介護実習施設で働く介護職員の介護観は、施設の種別によって因子構造が異なることがわかった。この違いは、施設の役割や利用者の特徴を反映していると考えられる。今回の調査では施設ごとの職員数が異なっており、今後はデータ数をそろえることも必要となろう。

### 文献

- 1) 白石旬子, 大塚武則, 影山優子, 藤井賢一郎, 今井幸充: 介護老人福祉施設の介護職員の「介護観」に関する研究. 介護福祉学, 17(2), pp.164-175 (2010)
  - 2) 山本末央, 久世淳子: 特別養護老人ホームで働く介護職員の介護観とモラル-介護観尺度と自由記述を用いて-. 健康科学論集, 21, pp.61-69 (2018)
- 謝辞: 本研究は JSPS 科学研究費 JP16K04717 における研究の一部です。ここに記して深謝します。
- 利益相反開示: 発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

(KUZE Junko, TAKEDA Keiko, NIWA Keiko, FUJIWARA Hideko, MASE Keiko, MIZUTANI Naomi, TAKAGI Naomi, ITABE Mikiko)